

# ひらくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM

VOL 6 NO 9 1981.12.1

平塚市博物館 TNO 68

## 普及活動のご紹介

### 石仏を調べよう

博物館では、年間を通じいろいろな教育普及活動を行っています。「星を見る会」、「自然観察会」、「デッサン教室」、「古文書講読会」などなど……。今回は、そのうちのひとつ「石仏を調べよう」の会をご紹介しましょう。

この会は、民俗学担当の小川学芸員を中心に、市内の石仏を研究している市民グループです。現在約20名のメンバーがおり、毎月第2と第4の土曜日に活動しています。以下は参加者の感想文です。



● 以前から素朴な信仰の対象となるような物に興味があり、「石仏を調べる会」に参加しました。

まだ初心者なので知らないことがたくさんありますが、大変興味深く思っています。ひとつひとつ調査して行くのは根気のいる地味な作業ですが、いろいろなことがわかり、楽しみでもあります。平塚に住んでいながら普段はなかなか行かないような場所を歩くのも楽しいものです。

(四之宮 山口 悅)

● 旅の本などのグラビア・ページの「野の仏」が目に浮かび、そういう認識で参加しました。

今までのところ「野の仏」には出会えずにいますが、庚申塔、道祖神、念仏塔などの存在を知り、それらを造った人との生活や信仰を身近に想像／

できることに喜びを感じています。

教科書では実感できなかった、人との暮らしや、願いや喜び、悲しみなどにも近づいて行けそうな気がして、石仏調べにひきつけられています。

(花水台 二宮由美)

● 子供の頃、秦野市薺毛の大日堂へ行き、大日、阿弥陀、お釈迦様などがこんなに偉いものかと驚いたことがあります。これに影響されたのか、石仏の調べがあるというので参加してみました。

小川先生の話いや、先輩の教えを受けて市内に散在する庚申塔や道祖神などを手当たり次第調べているうちに、ますます興味が湧いてきました。その時代の世相が現われているので感心し、信仰心も自ずから強くなっています。

(平塚 桐生賛作)

● 道祖神調べがあるというので、参加させて頂きました。

今年城所の淨心寺にて後生車を見て驚きました。今まで見たことが無かったからです。永井氏の本によると、箱根の阿弥陀寺に釣られた車、世附の百万遍念仏も皆後生車だそうです。珍らしいものでも、探せばあるものだと感心しました。

(董平 加藤春雄)

# 12月の行事

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	プラネタリウム 古文書講読会
6	日	プラネタリウム
7	月	休館日
8	火	
9	水	
10	木	デッサン教室
11	金	デッサン教室
12	土	プラネタリウム 土曜観察会「カラスのねぐら」 石仏を調べる会 天文観測会
13	日	プラネタリウム 自然観察会「冬の野鳥をたずねて」
14	月	休館日
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	プラネタリウム 古文書講読会 星を見る会「冬の星座をさがそう」
20	日	プラネタリウム 体験学習「おかざりを作ろう」
21	月	休館日
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	プラネタリウム 土曜観察会「高麗山の季節ごよみ」
27	日	プラネタリウム
28	月	休館日(年末年始)
29	火	"
30	水	"
31	木	"

# 1月の行事

## ● 自然観察会

### 「ローム層の観察」

ローム層の観察から土地のおいたちについて考えます。

日時：1月17日(日) 9時～15時雨天中止

場所：平塚市土屋付近

申込：1月7日までに往復ハガキで博物館へ。

## ● 体験学習シリーズNo.61

### 「日時計を作ろう」

何千年もむかしから使われ、正しく使うとおどろくほど正確な時を示す日時計を作ります。

日時：1月24日(日) 9時～14時

申し込み：往復ハガキで1月7日までに

定員：30名

なお、材料費として200円徴収いたします。

## ● 土曜観察会

1月9日 「シジュウカラの群」大磯・紅葉山

2月13日 「水辺の足跡探し」須賀

時間：午後2時～5時

参加希望者には参加案内を送りますので、60円切手同封で封書で申しこんでください。案内は館受け付けでもご配布しています。

## ● 寄贈品コーナー

12月・1月のテーマ「野鳥の世界」

寄贈を受けた鳥の剥製や、鳥の生態写真を展示します。

## ● ハチの巣を集めています

平塚市内には6種類のアシナガバチが生息しています。博物館ではハチの古巣を集め、地域によるちがいを調査することを計画しました。庭などで巣を見つけた方は、巣をビニール袋に入れ、巣のついていた所の住所、見つけた人の住所、氏名を書いたメモを入れて、博物館またはもよりの公民館まで届けてください。期限は2月末です。



登場された

## 平塚 豪族長の墓

— 塚越古墳 —

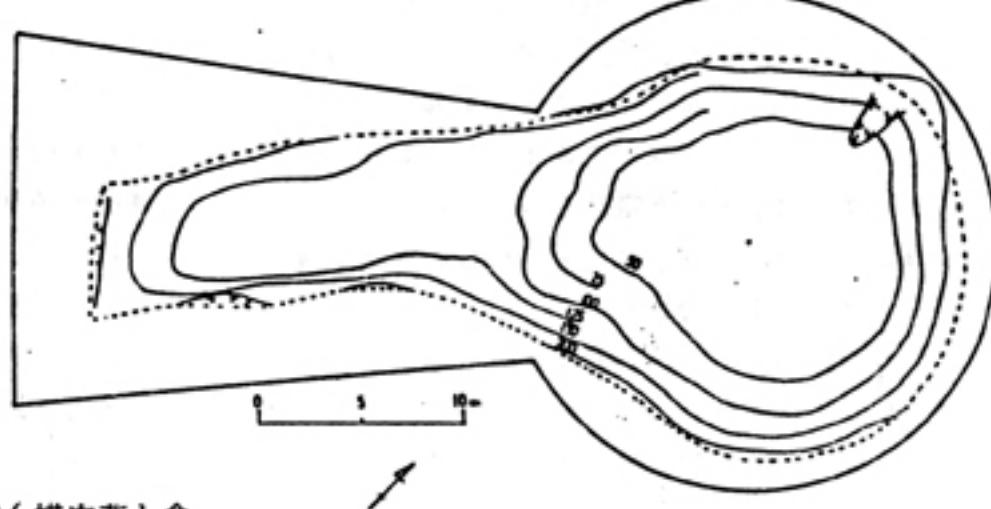
前号では真土大

塚山古墳について紹介いたしましたが、大和朝廷の支配権の拡大化につれ、相模国の内部構造も変化しはじめました。豪族同士の権力争いや、農業共同体内部での階級の分化による有力家父長層の台頭など、社会が大きく変りつつある時に塚越古墳は築造されました。

市内には古墳時代に造られた古墳（横穴墓も含む）は30カ所確認されていますが、消滅していった古墳は数知れません。現存する古墳で、最古かつ最も規模の大きいものが塚越古墳で、唯一の前方後円墳の形態をとっています。北金目の舌状台地上の標高3.6mに立地し、北金目神社の裏、東海大学校舎東側の畠の中に、こんもりと見えます。

開墾により前方部はかなり削平されていますが、比較的よくその形態を留めており、現存長45m、前方部長24m、後円部長21m、後円部の高さ2.35mを測ることができます。築造当時の規模は、全長48m、前方部長24m、後円部長24mと推定されます。この数字を見ると、全長：前方部長：後円部長の比率が2:1:1となり、ある一定の規則に基づいて造営されていることがわかります。

古墳の主体部（埋葬施設）は、大木をくり抜いた木棺の上に粘土で覆いかぶせたものと報告され

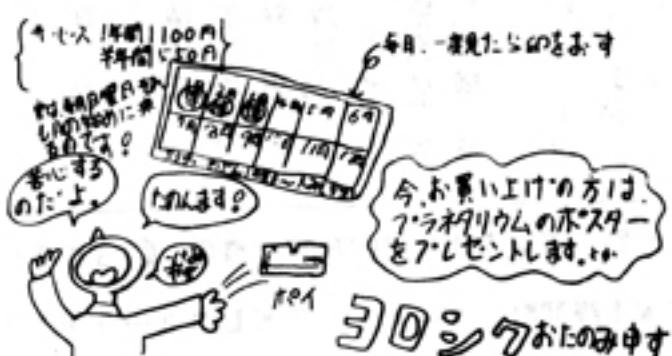


ています。遺物は、人骨、朱、管玉、鉄製工具の他に、五輪塔、宝鏡印塔、唐・宋・明鏡が出土しています。古墳の形態、規模、出土遺物から古墳時代後期6世紀に造られたと考えられています。

サガミの国に君臨した真土大塚山古墳から一世紀離れたこの時期は、前に述べたとおり、大きな社会構造の変化の渦の中に入っており、相模の中心地も秋葉山古墳群で代表される海老名市に移っているなど、相模国内部の支配関係も複雑な様相を示しています。塚越古墳の被葬者は大住郡周辺を含んだ地域を統轄していた人物と推定されますが、その権力を支える基盤となつたものは、金目川水系の水利権の掌握であったと考えられます。

この塚越古墳造営以後さらに社会階級の分化が進み、家父長墓の横穴墓群が造られるようになります。（A）

- ぼくは毎月 フラネタリウムを見てています。そう、かばいっつけて一年と2ヶ月も見ています。そこではては、フラネタリウムの券を買う時、一番になろうときめいています。せひ、一年間、半年間の定期券を作って下さい。



←2F展示室情報コーナーにある「なんでも書いてみよう」ノートより皆さんのご意見

↓学芸員からのお答え

フラネタリウムはいつも128円のキップで見ていました。乗り切れるよと席はいつもいいにぎりです。そして定期になると定期券130円の券で128円のキップで乗らなければなりません。そして定期券はチャージ券を購入する時に128円付けて130円としている。ということにしておと、ヘリオタービューム館跡地へ来たときに見つけた看板がありとあれどとても見えない。キャラクター券は買わなくて見えないけれども、それだけ、キャラクター券を買ってから128円のキップで見てます。それで、1月から12月までキャラクター券で見てます。

来年もキャラクター券で見てますね。

# 虫めがね

「博物館の受付にいる職員はとても感じがいいですネ」という声や、「この間、子どもが博物館に行った時受付のおばさんにとても親切にしてもらつたと大変喜んで帰ってきました。ありがとうございました」という電話も時折り掛ってくる。

職員の我々にとっては大変うれしい電話や博物館に寄せられる声である。

ここで、あえてその必要はないだろうがひとつ訂正をしておきたい。受付の2人の女性は市の職員ではなく、年間をとおして市が委託をしている

会社から派遣されて受付業務についている女性であるということである。

博物館には市職員の他に前記した会社から派遣されている社員が、電気、空調などの設備関係の運転や清掃、夜間警備と9名いる。

したがって、博物館の運営は目に見えないこうした人たちの支えと一体となって、市民に親しまれ、愛される館運営がなされているといえる。

ともあれ、来年も心をひとつにして市民のみなさんを、お待ちしたい。よいお年をどうぞ。(貞)

古文書  
資料

**古文書 資料** 現在、博物館に所蔵されている古文書は、目録済資料をとってみても、すでに、5千点を超える数にのぼります。これら古文書は、大きく寄贈文書と寄託文書に分けられます。寄贈文書というのは、所有が博物館に移された資料をいい、寄託文書とは、文書所有者が別にいて、博物館が管理・保存をまかされている資料をいいます。そこで、これら寄贈・寄託に分けてその一覧をみてみることに致しましょう。

寄贈文書

小川義一家文書・吉野喜之家文書・岩崎尚好家文書（以上大神）、山田喜助家文書（中原）、窪田尚雄家文書（広川）、木村豊治家文書（土屋）、江原一男家文書（入野）、安部得三家文書（平塚）。

渡辺盛一家文書(上平塚)、杉山民之助家文書(下島)、久保田正男家文書

審計文書

菅間莊家文書・今井治良家文書・金剛頂寺文書（以上岡崎）、柳川久三家文書・柳川力家文書・柏木守家文書・柳川正孝家文書（以上金目）、上野敬一郎家文書・上野亀雄家文書・市川豊家文書（以上真田）、菱島武夫家文書（土屋）、若林昌治家文書（吉沢）、杉山重幸家文書（須賀）、原田道之助家文書（八幡）（S 5 6.5 現在）などとなっています。

この他、購入資料として平塚宿関係資料などもあり、これらの文書は、「平塚市博物館所蔵目録Ⅰ～Ⅲ」に収録されています。

11月受入寄贈資料

- 1 1.1.0 ウグイス・カワラヒワ 茅ヶ崎市矢畠  
 730 小室明彦

1 1.1.2 自転車鑑札・ヘラ・押菓子の型枠 平  
 塚市公所 418-2 高山光史

1 1.2.6 タンス 平塚市虹ヶ浜 6-12 内田  
 武弘

1 1.2.6 桶・ショイバシゴ・大釜 平塚市上平  
 塚 7-22 今井英雄

ご協力を深く感謝いたします。

11月18日	11月5日	11月12日	10月28日	10月24日	10月23日
八代市、羽村町、東伊豆町、宇治市、釧路市等の観察があつぐ	57年度予算打合せ	湘南工芸家協会展開催 珪化木 転	NHK教育TVにて、「復元! 繩文土器」放映	豊田発掘 清祓式	市域航空写真(昭和22年撮影)搬入

## はくぶつかん

VOL. 6 No. 9 通巻 68 号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 © 3000  
発行 平塚市博物館 T 254 平塚市浅間町 12-41 TEL 33-5111